

2025

10

19

SUN

長嶺地域

コミュニティ協議会だより

自主

防災

訓練



地域消防団による
AED講習

人を助ける際に「救急車を呼んでください」「AEDを持ってきてください！」「など周りの人の助けも借りることの大切さを教えていただき、実際に心臓マッサージやAEDの使い方を学びました。心臓マッサージは一人でやり続けるには大変なので、人を呼んで代わってもらうなど、ここでも人に協力してもらう大切さを学びました。



消火器での的当て
簡易トイレ&ダンボールベット

水の入った消火器で的に当てる訓練。消火器は①ピンを抜く、②ホースを的に向ける、③握り込んで放水という手順があります。いざという時に消火器の使い方を知っているのといないのでは大違いです。さらに、的に当てるのは想像より難しく、しっかりと的にホースを向けて狙う大切さを学びました。簡易トイレの説明では、便座に袋を準備し、実際に水を入れて専用の粉で固める実演が行われました。避難生活では衛生的に過ごせることが大切なので、簡易トイレの重要さを学びました。ダンボールベットはとても簡単に組み立てが出来る、設置も楽で頑丈。毎日床で寝るような避難生活を少しでも快適に出来る重要な役割があると学びました。

自主
防災
訓練
2025

肌寒くなり始めた、曇り空の10月19日。各町内でそれぞれの場所に集合し、万代長嶺小学校の体育館まで避難する想定で自主防災訓練が行われました。各町内ごとに整列し、開会式では校長先生が中越地震当時赴任されていた山古志小学校の様子をスライドで説明。校舎内外での地震の悲惨な爪痕を心に刻みました。また、居安思危（こあんしき）についてのお話があり、安定している時にこそ、常に防災への備えの意識が大切ということ、避難した後の避難生活のための準備、災害時にトイレが使えなくなる理由、使えなくなった時の簡易トイレの大切さなど、実体験を踏まえた防災への準備をお話いただきました。

この自主防災訓練は万代コミュニティ協同行い、小学校では万長防災デーとし、児童と一緒に様々な訓練を体験しました。毎年一度この自主防災訓練を行っています。昨年元旦に起きた能登半島地震での被害や、避難した経験を元に普段からの防災への意識、大切さをより深く学べました。

災害はどの地域にも起こりうるものと考え、防災に必要なことは、避難するだけでなく、その後は避難生活が続くかもしれないという準備も大切なこと、避難場所への地域間での助け合いなど、様々な意識を学んだ貴重な一日となりました。



アルファ米など防災グッズの配布と
非常時にも役に立つ電気自動車

災害時に大切な長く保存できる食料やお水、様々な役に立つラップなどが配られました。また電気だけで動く車やハイブリッド車など、災害時に役に立つ車の展示、説明会も行われました。



ラップで止血
毛布の担架

どこの家庭にもあるラップで止血ができます。災害時には怪我が伴うことも多いため、止血方法の一つとして大きな役割を果たすことを学びました。また、担架がないときでも、毛布の端を丸めて複数人で運ぶことで担架として使えることを実際に人を運んで体験しました。



ガス缶発電機
煙体験ハウス

コンビニでも買える、カセットコンロで使うガス缶を燃料にした発電機が万代長嶺小学校の防災倉庫にはあります。その発電機体験と、火事による煙を想定した煙体験ハウスで、屈むこと、口を覆う、壁をつたうなどを学びました。煙の中は本当に前が見えない怖さがありました。



長嶺地域
コミュニティ協議会
Nagamine Regional Community Council

<https://minekomi.sakura.ne.jp/community.html>



発行日：令和7年11月6日

発行責任者：会長 大竹順一

編集・発行：広報部 大竹透

この事業は新潟市の地域活動補助金の交付を受けています。
この広報誌は新潟市地域活動補助金を受けて発行しました。

